

令和3年度 湯河原町地域公共交通会議 (神奈川県湯河原町) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

第21回
湯河原町地域公共交通会議資料

資料No. 2-1

地域の公共交通等の現況

鉄道・・・JR東海道線(湯河原駅)
民間路線バス・・・箱根登山バス、伊豆箱根バス、東海バス
タクシー事業者・・・箱根登山ハイヤー、伊豆箱根交通、湯河原タクシー、真鶴タクシー、門川ハイヤー

交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

- 持続可能な公共交通の形成・維持を目指す3つの基本方針
- 【基本方針Ⅰ】 公共交通不便地域の移動手段の確保と公共ネットワークの確保
 - 【基本方針Ⅱ】 福祉・観光等まちづくりと一体となった公共交通サービスの展開
 - 【基本方針Ⅲ】 協働による持続可能な仕組みづくりの確立

交通施策として実施した事業の全体像の概要

- 湯河原町コミュニティバスの利用促進PR
コミュニティバスの利用者数が減少したため、運行委託事業者から提供された乗降バス停の乗客データを分析し、自治会への回覧を行った。
- 高齢者・障がい者等も利用しやすい車両の導入
タクシー業者が保有する車両台数に対し、約25%(令和2年度時点約18%)をユニバーサルデザインタクシー(UDタクシー)に切り替えた。

補助対象事業の概要

公共交通不便地域の改善・解消のため、新たな公共交通システムとして、令和元年10月1日からデマンド型乗合いタクシー(区域運行型)の本格運行を開始した。

【デマンド交通「ゆたぼん号」】

事業者名: 湯河原タクシー
運行区域: 温泉場、オレンジライン、鍛冶屋、福浦
運行日: 月曜～金曜(祝日、年末年始は運休)
運行時間帯: 交通不便エリア発 9:00/10:00/14:00/16:00
目的地エリア発 10:30/11:30/15:00/16:30
運行本数: 4便/日(鍛冶屋・福浦エリアは4便目を運休)
運行車両: セダン型
運賃: 400円(乗合い、障害者手帳、運転経歴証明書等を所持している場合300円)

面積	40.97 km ²
人口 (R3.4.1時点)	24,362 人
15歳未満	1,802 人
65歳以上	10,182 人
高齢化率	41.79 %
世帯数	12,864 世帯

交通計画の策定年月日

平成30年5月

協議会開催状況

- 協議会の開催状況
(令和3事業年度に係るもの)
- 第1回(令和3年5月19日)
事業計画等について
 - 第2回(令和3年9月29日)
利用説明会及び利用者アンケート等
について
 - 第3回(令和4年1月24日)
事業評価等について

前回の事業評価結果の反映状況

- ・前回評価時に目標数値を達することのできなかった鍛冶屋、福浦の各エリアで利用説明会を開催

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】

- ・指標①:「ゆたぼん号」の乗車密度⇒目標値:1.3人/便以上

【当該指標・目標値を設定した理由】

- ・網形成計画において他自治体のデマンド交通等の運行継続条件を参考として設定
- ・実証運行時(平成30年10月～令和元年9月)の利用実績を踏まえて設定

【効果】

- ・高齢者等、マイカーを事由に利用できない住民の日常生活(通院、買い物等)における移動手段の確保ができる。
- ・地域住民(特に高齢者)の外出機会の増加につながり、住民の健康福祉の増進、地域の活性化に寄与することができる。



目標の達成状況・事業によって得られた効果

【指標①】

実績:「ゆたぼん号」の乗車密度1.59人/便(令和2年10月～令和3年9月)

(参考 各系統の乗車密度)

温泉場 1.22人/便 オレンジライン 1.68人/便 鍛冶屋 1.00人/便 福浦 1.13人/便

【目標を達成できた要因(分析)】

- ・オレンジラインエリアの利用ニーズが大変高く(乗車密度1.68人/便)、指標を押し上げる要因となった。

【事業によって得られた効果】

- ・実証運行から3年、本格運行から2年が経過し、各運行期間で利用率の高いオレンジラインエリアでは、生活スタイルの一部に「ゆたぼん号」を取り入れて、買い物や趣味などの外出機会の創出に「ゆたぼん号」が寄与されつつあることが期待できる。

アピールポイント

・利用説明会を実施した福浦エリアについては、説明会後の利用者が増加し、前年度事業年度日に比べて約2.5倍の利用者となった。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年1月12日から3月19日、7月26日から9月30日まで計93運行日の乗合い運行を原則中止した(前事業年度の乗合い中止期間は計47日間)。

・上記のとおり、緊急事態宣言を含む運行期間中にも関わらず、令和2年10月から令和3年9月までの1年間の延べ利用者数は3,199人となり、コロナ拡大前も含め、過去2年の中で最多となった。

今後の改善点

・更なる利用の定着を推進していくため、利用者層や利用用途、頻度、満足度などのアンケート調査を実施し、利用者ニーズを把握する。

・自治会の回覧等による周知や、利用説明会により、利用率の低いエリアでの新規利用者の獲得に努める。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止による乗合い中止により、今後の乗車密度が低下する可能性もあることから、評価指標・目標値についても再検討する必要がある。